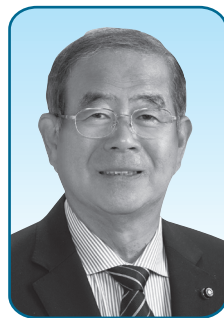


Q&A

一般質問



さいとう よしあき
斉藤 義明議員

自民党市政会



質問の様子は
こちら！

国内での姉妹都市の提携は

Q 今年、本市と米国サウスリフト市の姉妹都市提携35周年という記念すべき年であり、長い交流が続いているが、国内には姉妹都市がない。国内での姉妹都市提携について、市の見解を伺う。

A 本市においては災害時の相互応援協定の締結による協力的な構築など、相乗効果が期待できる分野における連携を積極的に取り組んできました。姉妹都市提携は、互いの市の自然や歴史などの共通項や市民レベルの活発な交流などを契機とした両自治体の強い意志により、有益な交流ができると考えています。「過性ではなく、長期的な視野に立った交流が可能な相手方自治体があれば、姉妹都市提携というアプローチも含めて検討していきます。」

(市長)

土地の有効利用による企業誘致の推進を

Q 企業誘致推進における土地の活用について、民間の低未利用土地活用や都市計画区域の用途見直しへの取組の現状は。

A 本市の用途地域は、昭和48年に計画決定されたものであり、必要に応じて見直しています。直近では令和3年1月に、林田町の臨海部においてバイオマス発電所の立地に向けた用途変更を行いました。今年度においては、坂出北インナーエンジのフルインター化などの交通網のさらなる充実に伴う民間事業者のニーズの変化を見据え、本市の用途地域全体の見直しを行う予定です。低未利用地については、地元関係者の意見等も踏まえながら、利活用が促進されるよう、見直しを進めます。

(市長)

質問の主な項目

- ・香風園について
 - ・特別職報酬等審議会について
- など



しのはら こういち
篠原 光一議員

無所属



質問の様子は
こちら！

坂出緩衝緑地再整備に向け、周辺住民と意見交換を

Q 坂出緩衝緑地再整備により、周辺住民からは、現在の緑地としての役割が損なわれてしまうのではないかと不安の声を聞く。周辺住民の声を再整備に反映すべくと考えるが、市の見解は。

A 坂出緩衝緑地の再整備にあたっては、「作りすぎず、壊しすぎず」を基本的な方針とし、できる限り現存する自然を生かした整備を考えています。一方で、生活環境の変化に不安を感じている声も聞いています。具体的な整備内容について検討する際には周辺住民のご意見も踏まえて事業を進めていきます。

(政策部長)

ごみの戸別収集を

Q 高齢者や体の不自由な人を対象に可燃物や資源ごみの戸別収集を実施してはどうか。

A 現在、本市においては粗大ごみの戸別収集は行っていますが、日常生活で出る可燃ごみや不燃ごみ等の戸別収集は行っていません。他の自治体では、自分で集積場までごみを出しに行くことが困難な高齢者や身体障がい者を対象に自宅玄関先まで伺い、ごみの収集や声掛けによる安否確認を行う「ふれあい収集」という制度があります。本市においてこの制度を実施するには、収集人員や使用車両等の収集体制、支援を行う対象範囲の調整に加え、利用の可否を審査・判定する体制の構築や利用者の個人情報に関係機関と共有する方法等も調整する必要があるため、今後、検討していきます。

(市民生活部長)

質問の主な項目

- ・地域経済の活性化について
 - ・加齢性難聴について
- など